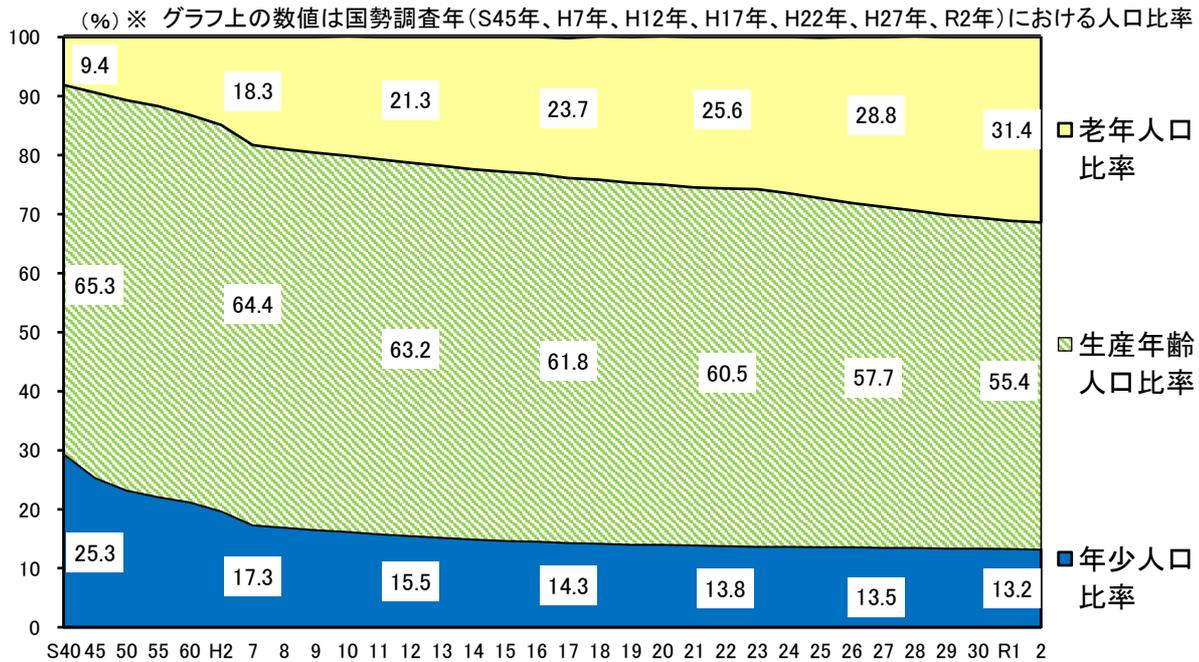


熊本県の年齢3区分別人口比率の推移



解 説

【概要】

令和2年の県内の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口13.2%（前年13.3%）、生産年齢人口55.4%（前年55.6%）、老年人口31.4%（前年31.1%）となった。

昭和40年以降の推移をみると、昭和50年代を境に生産年齢人口は減少に転じ、年少人口は平成初期に2割を割り込み、それ以降も減少が続いている。

一方、65歳以上の老年人口比率の推移をみると、昭和45年の9.4%から、平成12年には21.3%と2割を突破し、令和2年には31.4%と全国平均28.6%よりも早く高齢化している。

○年少人口
0歳から14歳までの人口

○年少人口比率
 $\text{年少人口} \div \text{総人口} \times 100$

○生産年齢人口
15歳から64歳までの人口

○生産年齢人口比率
 $\text{生産年齢人口} \div \text{総人口} \times 100$

○老年人口
65歳以上の人口

○老年人口比率
 $\text{老年人口} \div \text{総人口} \times 100$

資料出所	調査期日	調査周期
「人口推計年報」総務省統計局	令和2年10月1日	毎年